

科研費

申請書の 赤ペン添削 ハンドブック

第3版

第3版のはじめに
初版のはじめに
本書の構成・利用法

1章 総論

▶ 申請書全体から受ける「わかりにくい」印象を改善するにはどうしたらよいか。
まずはそこから解説する。

case01	これで完成!? 文章が下手で申請書の内容が頭に入っていない	015
case02	図がわかりにくい	019
case03	箇条書きが多すぎてわかりにくい	023
case04	概要と本文で研究項目の数が揃っていない	029
case05	概要と本文で研究目的が異なる	033
case06	美しくない申請書は読むのが苦痛 (1)	037
case07	美しくない申請書は読むのが苦痛 (2)	041
case08	一文が長くて読みにくい	045
case09	具体的に何を指しているかがわからない	049
case10	指示代名詞が何を指しているのかわかりにくい	053
case11	強調したい部分が目立たない	057
case12	簡潔に書かれすぎて内容がわかりにくい	061
case13	キーワードの意味がわからない	065
case14	研究のキーワードが埋もれて重要度が伝わっていない (1)	069

2章 研究目的、研究方法など：概要

▶ 2～9章では、申請書のコアとなる「1 研究目的、研究方法など」欄のブラッシュアップのポイントを解説する。2章の「概要」は審査委員が最初に読む大事な部分なのに、必要なことがきちんと書けていない人が多いので特に気をつけてほしい。

case15	必要な内容が十分に書かれておらずわかりにくい (1)	071
case16	概要とはいえ中身に乏しく具体的でない	077
case17	「背景」の記述が十分でなく解決すべき課題 (学術的「問い」) をつかみにくい	081
case18	「目的」と「背景」が分断されていてわかりにくい	085
case19	唐突なはじまりで読みにくい	089
case20	研究のキーワードが埋もれて重要度が伝わっていない (2)	093
case21	概要には必要ないもの (1)	097
case22	概要には必要ないもの (2)	101
case23	「目的」が埋もれていて見つけにくい	105
case24	科研費の目的としてふさわしいか (1)	109

3章 研究目的、研究方法など：背景

▶ 「本研究の学術的背景」の書き方のポイントを解説する。「一般的な背景」「申請者のこれまでの研究成果」がはっきりとわかるように区別して書こう。

case25	「(1) 本研究の学術的背景」の解説が長すぎてわかりにくい	113
case26	「(1) 本研究の学術的背景～学術的「問い」」に一般的な情報がなくわかりにくい	117
case27	研究遂行能力が十分にアピールされていない	121
case28	「目的」「背景」が混在していてわかりにくい	125

4章 研究目的、研究方法など：問い

▶ 「研究課題の核心をなす学術的「問い」」の書き方のポイントを解説する。「学術的「問い」」
≡「解決すべき研究課題」が「学術的背景」のなかに埋もれないように、別項目に分けてはっきりと示そう。

case29	「問い」がどこにあるのかわかりにくい	131
case30	「問い」が長すぎる	135

5章 研究目的、研究方法など：本研究の目的

▶ 研究を行ううえで最も重要な「目的」をアピールするところ。最初の数行で「目的」を簡潔に示す、「科研費」にふさわしい「研究目的」をまとめる、「目的」と「目標」を混同しないなどのポイントがある。

- case 31 「本研究の目的」がわかりにくい……………139
- case 32 「検証する」「開発する」だけでは研究目的としては不十分……………145
- case 33 科研費の目的としてふさわしいか (2)……………149
- case 34 「目的」なのか「目標」なのか、わからない……………153

6章 研究目的、研究方法など：独自性、創造性

▶ 「学術的独自性と創造性」の書き方のポイントを解説する。研究のユニークな点、オリジナルな点を、具体的に書くことでアピールしよう。

- case 35 「(2) 本研究の目的および学術的独自性と創造性」がわかりにくい……………157
- case 36 この研究ならではの独自性や創造性がわかりにくい……………161
- case 37 表現が控えめすぎて実現できるのか不安……………165
- case 38 「学術的独自性と創造性」としてふさわしいか……………169
- case 39 自ら「独自性・創造性がある」といっても説得力がない……………173

7章 研究目的、研究方法など：着想に至った経緯など

▶ 「本研究の着想に至った経緯」や「国内外の研究動向」の書き方のポイントを解説する。申請者ならではのオリジナルな経験から得た着想であることをアピールして、研究の重要性や意義を示そう。

- case 40 「本研究の着想に至った経緯」にオリジナリティがない……………177
- case 41 「本研究の着想に至った経緯」が平凡すぎる……………181
- case 42 「関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ」が具体的でない……………185
- case 43 「国内外の研究動向」と「背景」との違いがわかりにくい……………189

8章 研究目的、研究方法など：何をどのように

▶ 「本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか」の書き方のポイントを解説する。研究計画の詳細を具体的に示すだけでなく、冒頭に研究目的や研究計画の概略をくり返すことで、審査委員に読みやすくしよう。うまくいかなかったときの対応もきちんと書くことで実現可能性がアピールできる。

- case 44 研究項目が多すぎて何をしたいかが散漫に見える……………193
- case 45 必要な内容が十分に書かれておらずわかりにくい (2)……………197
- case 46 方法論は具体的なのにわかりにくい……………201
- case 47 研究計画の内容が少なすぎる……………205
- case 48 年度ごとの研究計画の詳細しか書かれていない……………209
- case 49 研究項目ごとに計画の詳細しか書かれていない……………213
- case 50 研究方法が具体的に何を指しているかがわからない (理系の例)……………217
- case 51 研究方法が具体的に何を指しているかがわからない (文系の例)……………221
- case 52 アンケート調査やプログラム作成の内容がないのでイメージできない……………225
- case 53 データ分析の種類だけで内容がないのでイメージできない……………233
- case 54 論文発表・学会発表・本の刊行は研究計画や方法としてふさわしいか……………237
- case 55 たくさんの項目を文章だけで説明しようとしていてわかりにくい……………241
- case 56 この研究ならではの特色がわかりにくい……………245
- case 57 研究項目ごとの「予想される結果と意義」がなく意図がつかみにくい……………249
- case 58 締め言葉がなく完結した感じがしない……………253
- case 59 前欄に戻らないと記号や略語の意味を確認できない……………257
- case 60 計画通りに進まないときの対応を考えていない印象を受ける……………261
- case 61 誰に相談するかがあいまい……………265

9章 研究目的、研究方法など：準備状況

▶ 「本研究の目的を達成するための準備状況」の書き方のポイントを解説する。「採択されてから○○をはじめ」という書き方はよくない。現在の準備状況を具体的に書こう。

- case 62 「本研究の目的を達成するための準備状況」で独りよがりな表現が目につく……………269
- case 63 これから準備するのでは不十分……………273

10章 応募者の研究遂行能力及び研究環境

▶ 論文や学会発表をリストにするだけではダメ。
研究の実現可能性を示すポイントを解説する。

case64 「(1) これまでの研究活動」に論文のリストしか載せていない	277
case65 「(1) これまでの研究活動」に載せた学会発表の情報が不十分	281
case66 「(1) これまでの研究活動」に申請書の研究テーマとの関連がない	285
case67 「(2) 研究環境」の書き方が主観的で、具体性が不十分 (1)	289
case68 「(2) 研究環境」の書き方が主観的で、具体性が不十分 (2)	293

11章 人権の保護及び法令等の遵守への対応

▶ 加点はないが減点がある欄なので気をつけよう。

case69 「人権の保護及び法令等の遵守への対応」が中身に乏しく具体的でない	297
---	-----

12章 その他 (研究経費や図など)

▶ 加点はないが減点はある欄のポイントや、どの欄でも当てはまる注意事項を解説する。特に後者に関するアドバイスは、審査委員のことをよく考えた申請書にするためのテクニックになりえる。

case70 「研究経費とその必要性」に必要性が書かれていない	301
case71 なぜ海外調査が必要なのがあいまい	305
case72 強調スタイルがいくつもありどこが重要かわからない	307
case73 図や画像が何を示しているのかわからない	309
case74 写真が不明瞭で意図がよくわからない	313
case75 図表の文字が小さくて読みにくい	315
case76 論文から流用された図は申請書ではわかりにくい	319
case77 回りくどい表現、なくてもよい表現がある	323
case78 主観的な表現、刺激する表現が目につく	327
case79 略語の種類が多すぎて把握できない	331
case80 なぜ最新あるいは流行の機器を使うのがあいまい	335
case81 時事問題への配慮が足りない	339
case82 表記が異なっており同じものを指すか違うものを指すかがあいまい	341

case83 「関連性」「関係」をもつのは何かがあいまい	343
case84 「AとBを用いて、CとDを行う」はわかりにくい	345
case85 雑なレイアウトで整った感じがしない	349
case86 不適切な接続詞を使っている	353

補遺1：申請者のための「申請書を書く、添削する」基本	356
----------------------------	-----

補遺2：研究支援者の申請書チェックの心構え	361
-----------------------	-----

付録1：セルフチェックリスト	363
----------------	-----

付録2：研究支援者のためのチェックリスト	367
----------------------	-----

付録3：実際の申請書の添削例	370
----------------	-----

付録4：申請分野別関連 case 早引きリスト	372
-------------------------	-----

付録5：インデックス別アドバイス一覧	374
--------------------	-----

索引	383
----	-----

申請者のギモン

① 昨年度とほぼ同じ申請書	018	17 図の解像度	212
② フォント	026	18 タイトル風	216
③ ひらがなと漢字	048	19 フォントの大きさ	232
④ 長い語句	056	20 (続) フォントの大きさ	236
⑤ 外来語	060	21 見出しの工夫	240
⑥ 慣用語や決まりきった言い回し	068	22 図の情報の向き	260
⑦ 模式図か計画表か	076	23 雇うという記述	272
⑧ リバース中、in press	130	24 学会参加	284
⑨ 図の配置 その1	144	25 強調 その1	288
⑩ 図の配置 その2	152	26 強調 その2	292
⑪ わかりやすい図に その1	160	27 強調 その3	296
⑫ わかりやすい図に その2	180	28 強調 その4	300
⑬ わかりやすい図に その3	184	29 スペースがないとき	304
⑭ わかりやすい図に その4	188	30 字下げ	322
⑮ 行間	200	31 「しかし」か? 「しかしながら」か? ..	338
⑯ (続) 行間	204		